

芭蕉元禄事業 奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民俳句ポスト

平成二十九年八月度 入選句（投稿総数二千五百四十五句・小中学投句数千六百六十五句）

### 特選

店 先に 並ぶ 便箋 夏模様 美濃加茂市 渡辺 留妃(中三)

夏の訪れが感じられる頃、暑中見舞や夏の楽しみ方などを手紙にされる方も多いと思います。しかし、今はスマホや携帯電話などでこうしたことを伝えられる方も多くなったのではないのでしょうか。

そんな中で、作者は店頭に並んだ便箋に目がいき、その便箋に夏らしい涼しげな模様が描かれていたのが目についたのですね。その気付きが素晴らしいです。俳句は現象を見てそこから気付きを大切にしています。作者はこの便箋を使って夏便りを書かれたのかなと想像しています。

わになつてははのうしろでぼんおどり 大垣市 服部 由奈(小三)

夏の夜、あちらこちらでぼんおどりが開かれていますね。そのおどりの輪にお母さんの後ろについて入ったのですね。いいことです。ぼんおどりはこのようにみんなの踊りの後についてだんだん覚えていくことが多いのです。そのお手本がお母さんとは素晴らしいことです。自分のしたこと（体験したこと）を俳句にできたことは読み手に実感が伝わります。ほのぼのとした俳句です。

風がふき作った風りんおどり出す 大垣市 野田 朱李(小六)

まず、風鈴を自分で作ったという事が素晴らしいことです。その風鈴を吊るしたら風がふいてきてきれいな音を出したのでしょうか。それを「風りんがおどり出す」としたところが面白いです。きつと風鈴は作ってくれた作者にお礼の気持ちを伝えたくておどっていたのでしょうか。

### 秀逸

ぴよんぴよんとせんこう花火遊んでる 大垣市 木幡 真雄(小四)

ひまわりの笑顔に染まるお姉ちゃん 美濃加茂市 藤吉 優奈(中二)

こうさくがかわいくできたつゆはれま 大垣市 前原 彩良(小六)

おじいさんビールをのんであわおひげ 大垣市 佐竹 璃菜(小三)

夏の川すらりとのびる川灯台 大垣市 松岡 凌駕(小六)

自転車をプールにとばす夏が来た 大垣市 金森 想奈(小六)

せみしぐれ工事の音をかき消して 大垣市 日比 成(小六)

芭蕉像はしゃぐ子供を見て笑う 大垣市 伊藤 鈴(小六)

つの上げてじゅえきとりあうかぶと虫 愛知県名古屋市井上 雄太(小三)

しゅくだいが半分おわった夏の空 大垣市 加納 未悠(八才)

入選

教室にふきぬけてくる夏風が 大垣市 水谷 紗彩(小六)  
 悔しさと汗と涙の中体連 美濃加茂市 小椋 千穂(中三)  
 猛暑の日体育館に垂れる汗 美濃加茂市 柘植 幹大(中三)  
 受験という夏の戦場立ち向かう 美濃加茂市 荻谷 歩花(中三)  
 中体連勇姿を見せる後輩に 美濃加茂市 柘植 雄大(中三)  
 かつとばせ入道雲までホームラン 美濃加茂市 山口 純奈(中三)  
 セミ達の演奏会で目が覚める 美濃加茂市 真鍋 百永(中三)  
 手の中に南極大陸かき氷 美濃加茂市 野田 花(中三)  
 青葉たち枝と枝とであくしゅする 大垣市 東 希乃花(小六)  
 ゆく人があせの大たき流してる 大垣市 伊藤 英明(小六)

入選

せみの声水門川とながれてく 大垣市 横川 大和(小六)  
 夏の夜ほんのり照らす川灯台 大垣市 野原 麻陽(小六)  
 芭蕉さんぼくも青葉もわらってる 大垣市 保高 佑空(小六)  
 ひまわりがおくった言葉元気だね 大垣市 廣畑 裕美子(小三)  
 なつのなみざぶざぶゆれてどこいくの 大垣市 谷崎 拓斗(小三)  
 手をつなぐ家族がうつる夏の川 大垣市 国枝 一葉(小六)  
 青葉風ぼくの体をとおりぬけ 大垣市 河野 舜太郎(小六)  
 ぴんくあおまぜてあさがおいろみずに 大垣市 やなえ ゆうな(五才)  
 ひまわりはわらうわたしのえがおだね 瑞穂市 つげ かほ(五才)  
 森の中どこまで行ってもせみのこえ 不破郡垂井町川瀬 悠香(小二)

選者吟

地藏盆提灯持つ子一人増え

祐子